

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長	文化国際課長 坂本 偉健	電話番号	0852-22-6006
----------	--------------	------	--------------

事務事業の名称	民間交流・友好団体等の支援		
目的	(1) 対象	県民	
	(2) 意図	民間における国際交流活動等を促進する	
事業概要	韓国慶尚北道との姉妹提携の中断により、韓国との自治体交流事業が途絶えた状況の下、民間レベルでの交流の推進や、将来の日韓交流を担うリーダーの育成を図るため、県民に対して同国への理解を深めることを目的とする講座及び現地研修を行う。 また、島根県日韓親善協会連合会が行う民間交流事業の支援を行う。		

2. 成果参考指標

成果参考指標名等		年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位
1	指標名	韓国理解講座の参加人数	目標値	20.0	20.0	20.0	20.0	人
	式・定義	講座に参加する県民の人数	実績値	28.0				
			達成率	-	-	-	-	
2	指標名		目標値					
	式・定義		実績値					
			達成率	-	-	-	-	

3. 事業費

	前年度実績	今年度計画
事業費(b) (千円)	1,241	1,286
うち一般財源 (千円)	1,241	1,286

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した(実施予定、一部実施含む)
---------------------	------------------------

5. 評価時点での現状 (客観的事実・データなどに基いた現状)

韓国との外交関係やメディアでの報道等の変わり具合により、県民の韓国に対する感情にも変化が生じやすい環境ではあるが、韓国への理解に関心を抱く県民は一定層が存在する。

6. 成果があったこと (改善されたこと)

慶尚北道との自治体交流が中断しているなか、県民に対して韓国との相互理解を図る機会を提供し、これをきっかけに韓国との民間交流が進んでいる。
 また、日韓親善協会にあっては、理解講座の講師や青少年交流への協力支援など、日韓間の民間交流の先導役、橋渡し役を担ってもらっている。

7. まだ残っている課題 (現状の何をどのように変更する必要があるのか)

- ①困っている「状況」
 韓国に対する理解促進の取り組みを長期的視点で進めていく上で、将来の日韓交流を担うリーダーの育成が不可欠であるが、若い世代の参加者が伸び悩んでいる。
- ②困っている状況が発生している「原因」
 韓国との外交関係やメディアでの報道等も影響し、若い世代にとっては、韓国が「近くて遠い国」であり、他国に比べて関心が薄く、交流相手としての関心度が低い状況である。
 また、若い世代の参加者の低迷が、結果として韓国に対するさらなる距離感を生む悪循環となっている。
- ③原因を解消するための「課題」
 韓国との交流に関心のある若い世代が参加しやすい条件(内容・時期・費用負担等)を検討していく必要がある。

8. 今後の方向性 (課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方)

日韓間においては、領土や歴史などの諸問題を抱えているなか、民間主体での交流や相互理解を深めることは大変重要であり、若い世代を中心に、より多くの県民の参加を促していく。そのためには、時宜に応じたテーマ設定や講師選定など、県民の参加メリットが高まる魅力的な講座・現地研修となるよう、工夫をしながら進めていく。

・課(室)内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効果的・効果的に行ってください。
 ・上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。

9. 追加評価 (任意記載)